

大分県まちづくり実行委員会 活動報告

報告日 2006年 1月17日(土) 報告者 労組名 トキ八労組 氏名 花木 保憲

開催日 2006年 1月13日(金)

開催場所 大分市 コンパルホール

参加者 トキ八労組、トキハインダストリー労組の執行委員31名

講師：日本政策投資銀行大分事務所 所長代理 岡田 拓也氏

内容 日本政策投資銀行大分事務所の岡田氏をお招きしてまちづくり講演会を開催しました。演題は「地方都市における“まちなか”再生に向けて」で、「昭和の町」として年間22万人の来街者を数えるようになった大分県豊後高田市の事例について講演いただきました。

21世紀の地域振興とまちづくり...九州の可能性、大分の可能性、まちづくりについて

豊後高田市「昭和の町」について...昭和の町の取り組み、豊後高田観光まちづくり株式会社

歌舞伎町版「家守事業」について...「家守事業」と別府の商店街への応用

政策投資銀行との関係は、実行委員会委員長が県の長期計画策定県民会議の産業振興部会で大分事務所長と同じ部会のメンバーだったことからできました。

『まちづくり講演会』



《コメント》

パワーポイントを使いながら「昭和の町」の取り組みについてご説明いただきました。昭和の町が成功したのは シナリオライターの存在、 地域外人材の活用、 地元関係者の再生への意欲、 市の理解・支援 と30年代以前の建物が7割残っていた偶然が重なったこと。全国の自治体の1割強が視察に訪れているとのことでした。ちなみに投資額は2億円程度。

《コメント》

講演を聴くメンバー。

まとめは以下の通りでした。

リーダーの存在：よそ者・若者・バカ者

自分の住む土地に愛着・誇りを持つこと、意識の向上

住む人が自信を持てなければ、人はやってこない

地元住民の参加が確保できなければ続かない。

地域の特色と遊離しない振興策

オンリーワンをめざす：地域独自

ハードだけではないソフトとの融合策

金をかけなくともある程度の成果は可能

(勿論、方向性・戦略によっては一定のハードルも必用)



まとめ・感想

大分県まちづくり実行委員会はトキ八労連の1組織だけで構成されています。今回の講演会はトキ八労連を構成するトキ八労組、トキハインダストリー労組の執行委員31名が参加しました。まちづくり実行委員会は発足したばかりで、いったい何から手を付けたらいいのか手探りの状態です。そこで“まちづくり”とは何なのかを考えるために講演会を開催しました。

講演の中では、大分県では湯布院や別府、臼杵、長湯温泉などの先進事例があり、田舎という既成概念にとらわれず発想の転換と新しい価値観が必用であり、地域の資源を見つける(見直す)ことから始めること、新しい切り口とストーリー探しが重要であることなど今後の取り組みへの示唆もいただきました。

次の活動として「昭和の町」に行って現地でフィールドワークを行いたいと思います。

日本政策投資銀行は「地域再生」「環境」「技術・新産業創造」の3つを重点分野として掲げています。特に自立型地域創造の業務では、各地の地域づくりの取り組みを資金面、情報面からサポートしています。そういった意味では各県のまちづくり実行委員会の取り組みの参考になるのではないかと思いますので、利用してみたいかがでしょうか。

次回開催日 3月 3日(金) 次回開催内容 連合の政策要請について